# 2022 年日本建築学会北海道支部技術賞　受賞者一覧

**◆北海道支部技術賞**

表彰技術名 ― 小規模自治体を対象としたまちづくりに関する総合的計画技術

小篠　隆生　北海道大学大学院工学研究院建築都市部門空間デザイン分野都市地域デザイン学研究室

（３）審査経緯・講評

日本建築学会北海道支部技術賞表彰規定　第７条第２項に基づいて，支部技術賞選考部会を構成する委員を確認し，選考部会を計２回開催した。Covid-19 感染拡大防止のために，２回ともオンライン会議とした。技術賞選考部会では，応募のあった下記 1 件の内容について協議した。

応募された技術名称：小規模自治体を対象としたまちづくりに関する総合的計画技術

第１回の技術賞選考部会は，募集要領の選考基準に定められる，「地域性・独自性」，「有効性・新規性」，「継承性・継続性」の３つの観点に基づき，技術内容を把握した。その結果，応募技術について，技術内容と表彰対象候補者の関係性等について裏付ける追加情報の提供を依頼することとした。

第２回の技術賞選考部会は，提出のあった追加資料を併せて，技術内容について再度各選考委員で議論し，技術賞表彰候補にふさわしいと評価した。その評価理由は，下記の通りである。

小規模自治体などに求められるまちづくりの概念を東川町において調査・研究・計画・実践・評価し，それらのサイクルによって「適疎まちづくりの概念」を示している。これは地域規模に見合う価値観と，その結果構成される空間密度を前提とした３つの計画技術を示し，また，公共施設の整備を単体のイベントで終わらせることなく，地元自治体が抱えるまちづくりの目標実現に結びつけることに大きな役割を果している。さらに，公共施設整備・再編のプロジェクトに行政内の複数の施策が対応・連動させ，施策による効果が他の施策にまで波及するように公共施設の再整備とそれらの運営プログラムを策定しまちづくり目標の総合的な実現を支援している。一方，「計画技術」に関して技術内容と照らしあわせた時に飛躍的であるとの意見がだされたが，今後，日本の公共施設再整備における発展的展開を期待し評価することとした。

エンジニア的な技術ではなく，計画的・マネジメント的な技術も本技術賞としてこれから推奨していく意味でも重要との判断もあり，2022 年度日本建築学会北海道支部技術賞候補として評価した。

後日，支部役員会において，技術賞選考委員会から技術賞表彰候補として報告し，審議の結果，2022 年度日本建築学会北海道支部技術賞に決まった。

（文責　谷口　尚弘）